

# 中央電気倶楽部月報

◎巻頭言

「なんとなくの効用」

／株式会社関電L & A 代表取締役社長 大植 康司 氏

◎午さん会講演録

『甲子園100年』

／一般社団法人 大阪スポーツマンクラブ 会長 玉置 通夫 氏

2024  
5  
Vol.863

中央電気倶楽部月報

令和六年五月一日発行 一般社団法人 中央電気倶楽部 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目二十五番地 電話〇六一六三四五一六三五(代) FAX〇六一六三四五一六八七七



## 倶楽部からのご案内

### 会員ご家族婦人会见学会のご案内

SDGsと「三方よし」

開催日 令和六年五月二十一日(火)

出発 中央電気倶楽部 九時三十分

行先 西川庄六郎 西川甚五郎邸：昼食

日牟禮茶屋：ラコリーナ近江八幡

：大阪駅付近十八時頃

定員 二十五名(同伴歓迎)先着順

会費 会員 一、〇〇〇円

非会員 一五、〇〇〇円

申込方法 五月七日(火)までに事務局(松本へ)

ご連絡ください。

※当見学会限定特典

①通常是非公開の西川甚五郎邸(国の重要文化財)と西川庄六郎(県指定文化財)を特別に見学させていただきます！

※特典

②ラコリーナ近江八幡を見学し、「たねや」グループ「たねや」を展示するたねやグループ本社(非公開)で経営本部長よりご講演いただきます！



### 電気関係施設見学会のご案内

関西電力最大の原子力発電所

開催日 令和六年六月二十五日(火)

出発 中央電気倶楽部 九時

行先 大飯発電所(原子力運転サポートセンター)／ビクターズハウス・おおいり

館：大阪駅付近十八時三十分頃

定員 二十名(同伴歓迎)先着順

会費 会員 一、〇〇〇円

非会員 一五、〇〇〇円

申込方法 六月六日(木)までに事務局(松本へ)

ご連絡ください。

※当見学会注意事項

事前に事務局より申請書の記入をお願いいたします。(お申込の際、詳細をご説明いたします。)

見学会当日、本人確認書類をご持参下さい。



大飯発電所全景 提供:関西電力

### 公開講演会開催のご案内

通算一・二回となる令和六年度第二回の中央電気倶楽部「公開講演会」は、講師に公益社団法人「二〇二五年日本国際博覧会協会」副事務総長の櫻真夏様をお迎えし、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに夢洲で開催される今回の万博の意義やコンセプト、魅力や見どころについて講演をいただきます。

なお、この講演会は会員に限定せず、どなたでも自由に出席できる公開の講演会ですので、奮ってご参加下さい。

日時 令和六年七月十九日(金)

十三時三十分～十五時十分

場所 (二社)中央電気倶楽部 五階大ホール

演題 「二〇二五年日本国際博覧会」

(大阪・関西万博)の見どころ

講師 公益社団法人

二〇二五年日本国際博覧会協会

理事 副事務総長

聴講料 無料

申込方法 倶楽部事務局に電話・FAX・メールで

受講希望者の所属団体、役職名、氏名をご連絡下さい。登録いたします。

締め切り 令和六年七月五日 金曜日

問い合わせ先 定員(一〇名(先着順))

中央電気倶楽部 事務局(藤川)

TEL〇六一六三四五一六三五六

FAX〇六一六三四五一六八七七

Eメール koukai@chuodenki-club.or.jp

五月のスケジュール

一	水	電寿会(三二六号室) 十二時 社交ダンス教室(B一〇号室) 十七時
二	木	
三	金	憲法記念日(休館日)
四	土	みどりの日(休館日)
五	日	こどもの日(休館日)
六	月	振替休日(休館日)
七	火	
八	水	社交ダンス教室(B一〇号室) 十七時
九	木	
十	金	午さん会(電社会合同) 講演(仮)『米国外交の行方 〜大統領選挙の見通しを踏まえて〜』 同志社大学 法学部 教授 村田 晃嗣 氏
十一	土	撞球部春季大会 囲碁部例会
十二	日	
十三	月	青年会例会
十四	火	ゴルフ部例会・チャンピオンシップ(琵琶湖CC) 食堂委員会(特別会議室) 十一時
十五	水	社交ダンス教室(B一〇号室) 十七時 絵画部(水彩画)(大阪市中央公会堂附近の風景)雨天は(B一〇号室)
十六	木	
十七	金	午さん会 講演『日本の安全保障と憲法改正』 産経新聞社 論説委員長 榎原 智 氏
十八	土	第二六五回麻雀大会 初・中級者向け囲碁教室(十時〜十二時・二〇五号室) 囲碁部指導日 いなづま句会(三二七号室)
十九	日	
二十	月	
二十一	火	会員ご家族婦人会見学会(西川庄六郎・西川甚五郎邸・ 日牟禮茶屋・ラコリーナ近江八幡)
二十二	水	社交ダンス教室(B一〇号室) 十七時 理事会(WE B)
二十三	木	
二十四	金	午さん会 講演(仮)『口笛コンサート(公演タイトル検討中)』 口笛奏者 儀間 太久実 氏
二十五	土	将棋部例会(指導なし) 十三時
二十六	日	
二十七	月	
二十八	火	
二十九	水	社交ダンス部例会(B一〇号室) 十七時 写真部撮影会(神戸異人館)
三十	木	
三十一	金	午さん会 講演『日本画とは?』 〜歴史上日本美術は世界の最高峰〜 そして、恩師加山又造先生のこと〜 日本画家 山下 まゆみ 氏

※予定変更の場合は改めて連絡いたします。



2F談話室

目次

5月のスケジュール — 2  
 6月・7月の予定  
 巻頭言 — 4  
 写真 — 5  
 講演録 — 6~14  
 倶楽部だより — 15~16  
 同好会だより — 17~19  
 倶楽部からのご案内 — 20

創立：大正3年11月  
 建物(本館)：昭和5年竣工  
 会員数：1,412名

法人指定会員 1,186名  
 個人会員 226名  
 (R.6.4未現在)

六月の午さん会講演(予定)

- ◎六月七日(金)  
 講演(仮)『震災、津波への備えと対策について』  
 大阪管区気象台 気象防災部長 調整 中
- ◎六月十四日(金)  
 講演(仮)『海洋日本を守る安全保障の処方箋  
 〜脅威にどう対応するべきか〜』  
 東海大学 海洋学部 教授 山田 吉彦 氏
- ◎六月二十一日(金)  
 講演(仮)『五代友厚氏が大阪に残したもの  
 〜その評価について〜』  
 鹿児島大学 名誉教授 原口 泉 氏  
 志学館大学 教授
- ◎六月二十八日(金)  
 ビデオ映画鑑賞会  
 『天外者(てんがらもん)』  
 『生涯をかけ日本の未来を切り開いた男  
 『五代友厚』の知られざる物語』(一一〇九分)  
 主演 三浦 春馬  
 三浦 翔平  
 監督 田中 光敏

七月の午さん会講演(予定)

- ◎七月五日(金)  
 講演『頼清徳政権の発足と中台関係の情勢』  
 拓殖大学 海外事情研究所 門間 理良 氏  
 教授
- ◎七月十二日(金)  
 講演『パレスチナ問題とガザ情勢』  
 防衛大学校 人文社会科学群 国際関係学科 准教授 江崎 智絵 氏
- ◎七月二十六日(金)  
 講演『金利上がる世界  
 〜日本経済再生の条件は何か〜』  
 産経新聞社 東京本社 編集委員兼論説委員 田村 秀男 氏

公開講演会

- ◎七月十九日(金)  
 講演『二〇二五年日本国際博覧会  
 (大阪・関西万博)の見どころ』  
 公益社団法人 二〇二五年日本国際博覧会協会 理事・副事務総長 櫻 真夏 氏

午さん講演会にご出席のおすすめ

毎週金曜日の午さん講演会は、下記の要領で開催いたしておりますので、多数ご出席ください。  
 出席資格：倶楽部会員およびご同伴の方、会員会社の社員の方  
 時間：12時〜13時40分頃(講演12時40分〜13時40分)  
 場所：3階大食堂  
 食事代：一人会員2,200円(税込) 非会員2,500円(税込)  
 予約：不要  
 着席：自由着席

# 「なんとなくの効用」

大植 康司  
 (株式会社関電 L&A  
 代表取締役社長)



数年前の出来事であるが、東京出張で近鉄京都線に乗っていて、ふと十年前に住んでいて引越して疎遠になっていたマンションの住人のことを思い出してしまった。その後、京都駅に着いて前を歩く雑踏の中で彼を見つけた。予知能力かと思っってしまった。その後も遠い誰かを思い浮かべていたら、その後、時間をおかずその人と会う、別の人がその人を話題にするとかいうことを何度も経験した。こういう偶然の一致をシンクロニシティということを知った。これはどうも現代の科学ではうまく説明できないと思う。

でも考えてみると、人間は太古の時代より、気象を読んで農耕を行い、兆しを読んで戦いを生き延びてきた。自然現象を精緻にとらえようとする近代科学は、ここ百五十年くらいの歴史ではないか。それまでは、言葉はあったが、見えないものをとらえようとして全身全霊使って生きていたのではないか。言わば数値的データに基づかず、言い伝えや直感によって生活を営んできたのではないか。

今年の大河ドラマ「光る君へ」において、安倍晴明が陰陽道と称して占いの判断で政治を進めていく場面が描かれている。自然界の何かを察知する能力が彼は長けていたのだろう。

人体の脳の構造を見ると、古くから脳幹―大脳辺縁系―大脳新皮質の順で進化し三層構造となっている。直感的な対

応は人体各器官から辺縁系に伝わり、〇・一秒で処理されるらしい。大脳新皮質は高度な情報処理機能を獲得したもので、ここでの処理は少し時間がかかり〇・五秒と言われている。今生き延びている人類というのは、身体感覚に由来した判断機能を十分に活用し、育てることで生き延びてきたと思う。

生成AIが人間の頭脳領域に取って替わる、それに近い日が来るかもしれない。ただそれは大脳新皮質機能を獲得したというだけではないのか。肉体を持つ人間に備わる辺縁系、ここが日本語で腹落ち、英語では gut feeling によって来る器官ではないか。ここを身体機能を持たないAIが実現化していくのだろうか。予知能力などは環境からくるいろいろなノイズを受けて、身体の各器官を経由して辺縁系が独自処理した結果ではないかと思う。

現代において決めた物事を高精度に進めるには科学を活用すべきだろう。しかしどの領域に進もうとかいう判断は、太古から備わる辺縁系に委ねてもいいのではないか。脳と身体からのバランスを取り、物事を感じて判断していくことが過去から「やりたくない」といった漠然とした体の声に耳を澄ませ、生きていきたいと思う。

## 撮影者のひと言

とんぼの世界に魅せられて、春から秋にかけて、ひたすらとんぼを追いかけています。

望遠レンズとマクロレンズを使って背景をぼかし、日本画のようなとんぼの世界を作ろうと頑張っています。

なぜとんぼに魅せられたのか。

幼少期からカブトムシなどの甲虫目の昆虫は大好きでしたが、特別とんぼに夢中という子供ではありませんでした。ところが、本格的に写真撮るようになって、あるときとんぼを撮影してみたところ、ファインダー越しに見るととんぼが何故か他の昆虫より姿形が美しく活き活き動いているようにふと感じられたのです。それがきっかけでとんぼにのめり込みました。

とにかく今は、とんぼの写真と言えば「とんぼのトモダチ『友田』」と言われるように、精一杯小さな世界を撮り続けます。

(写真部員 友田 紘輝)



「小さな世界」 個人会員 友田 紘輝 君



一般社団法人大阪スポーツマンクラブ  
会長 玉置 通夫 氏

# 『甲子園一〇〇年』

〜甲子園球場誕生のいきさつ〜

高校球児たちの聖地となっている甲子園球場は今年八月一日に百回目の誕生日を迎えます。大正、昭和、平成、令和の四代を生き抜き、大衆文化を見続けてきた歴史の生き証人のような存在です。その甲子園球場が生まれたいきさつには、直接的な原因と遠因とがありました。遠因と

ていくには日本人の貧弱な体格ではダメだ、体力をつけなければならぬと考へ、そのためにしっかりとした運動場を建設するのだという野望を持っていました。

県の払い下げ地となった河川敷を真っ先に買い取った阪神電鉄、つまり三崎省三は、そこで球場建設を始めます。今はもうなくなりましたが、鳴尾の競馬場のなかに運動場がありました。ここで開催されていたのが中等学校野球大会です。今でいう夏の甲子園大会にあたるでしょう。この中等学校野球大会は、地元の神戸一中や関西学院中（現・関西学院高等部）が優勝するに及んで人気が沸騰します。多くの観客が押しかけようになり、ただの広場に線を引きただけの球場では収拾がつかず、本格的な野球場を求める声がありました。

中央電気倶楽部で練られた  
甲子園球場の建設構想

これに迫られる形で野球場建設を

してあげられるのは武庫川の氾濫です。

武庫川は、昔は現在のJR甲子園口駅の辺りで枝川と二つに分かれていました。そしてその枝川は申川へと分かれていました。今の甲子園球場が位置するのは、この二つの支流の分岐点にあたります。

武庫川は江戸時代から氾濫を繰り返す暴れ川でした。ですから治水を決めたのは大正十二年春です。しかし当時、本格的なスタジアムはアメリカにしかありませんでしたから、ちゃんとした野球場を見たことのある人なんていません。そこで同年五月から数回、二ヶ月にわたって野球の専門家たちに集まってもらい、この中央電気倶楽部で会合を開きました。

球場の向きはどうするのか、フェンスはどういうものを設置するのか、観客席はどうするのか、球場内のデザインはどうするのか、グラウンドに敷き詰める土は何がよいのか等々、専門家たちから聞き取りをします。阪神電鉄側の担当者である野田誠三さん（後の社長）も野球についてはまったくの門外漢でしたが、専門家たちの意見をノートに書き写しながら、野球場の全体像をイメージとしてふくらませていったそうです。その意味では、甲子園球場の原点は中央電気倶楽部にあったといっても過言ではないと思います。

着々と野球場の建設構想が進む大正十二年、夏の大会で優勝したのは

することが地域の人たちの願いでした。大正期に入り、県は枝川の廃川を決め、埋め立て工事を始めました。この埋め立て地の買い取りを募集したところ、真っ先にこれに応じたのが阪神電鉄でした。当時、阪神電鉄では専務の三崎省三という人物が力を持っていました。アメリカの大学での留学経験があった彼は、その時の経験から、**西欧の列強諸国に伍し**

〜短期間で完成した甲子園球場〜

甲子園球場建設の気運が盛り上がるなか、九月一日に関東大震災が発生し、東京は壊滅状態となりました。関西からも建築建設に携わる人たちが応援に駆け出されたために着工の動きが鈍くなります。結果、翌十三年三月十六日に起工式を行い、八月一日の完成式となりました。しかし考えてみれば、三月半ばに起工式をして、四ヶ月半後の完成です。四ヶ月半で本当にあれだけの球場がつくれたのだろうかと思わざるをえません。なぜ短期間で完成したのか、いくつか考えられる要素があります。

ひとつは豊富な労働力です。労働基準法も児童福祉法もない時代でし

たから、高等小学校を出た十四歳くらいの子どももたくさん人足として駆り出されました。もうひとつは、当時の甲子園の付近は狐狸の里といわれていたほど、ひと気のない場所だったことです。大きな音を出しても夜通し明かりをつけていても問題はありません。建設現場としては最良の環境です。さらには近くを電車が走っていますから、電気も変電所から電線を引くだけでよい。明々と光る電球のラインが長々と続いていたら当時の人がいっています。つまり、徹夜の突貫工事です。夜も休まぬ工事により、短期間での完成をしたのだと思います。

最大の要素は天候です。工期中、空梅雨だったといわれています。工期百五十日の内、雨で終日の工事中止となったのはわずか九日だけ。三月から始まり、一番の佳境にさしかかる六月、七月の梅雨時、例年ならば雨降りで作業が進まなくなるのですが、空梅雨となり、間断なく工事が進んでいったことは、短期間完成の大きな要素だと思えます。

カレーのルーなど市販されておらず、カレーライスを食べようと思えばレストランに行き、かしこまりながら食べる時代です。そのカレーライスを球場の食堂で提供していました。しかもコーヒーまでついてくる。今とは違い、気軽に喫茶店でコーヒーを飲む風習などありませんから、一般の庶民にとってはコーヒーは珍しい未知の飲み物でした。甲子園球場に行けば、カレーライスを食べてコーヒーを飲み、水洗トイレまで使える。これがひとつのキャッチフレーズでした。

女性にスポーツ観戦の

門戸を開いた甲子園球場

初めての夏の大会が終わったあと開かれた新聞社主催の座談会で、「今大会が目立ったのは女性客の多さだった」との意見があったという記録が残っています。それまでの中等学校野球大会は男の世界です。女性席があったとしても、ほとんどが空席でした。ところが広い甲子園球場

今時のように大型ブルドーザーなどを駆使するような工事ではありません。残っている写真をみれば、グラウンドの整地に使うローラーを牛二頭にひかせている。作業のペースが悪い分、休みなしの突貫工事をしていたことは容易に想像ができます。

八月十三日から始まる夏の中等学校野球大会に間に合わせるため、工事は七月三十一日までに完成せよと決められていました。実際にそのときの開会式を見た人の話を聞くと、スタンドの上にはペンキの塗り残しがまだたくさんあり、とにかく間に合わせたという感じだったそうです。

時代の最先端の象徴だった

甲子園球場

いずれにせよ、わが国で初めてとなる本格的な総合運動場が完成しました。その頃は野球場に限定したものではありません、「阪神大運動場」という正式名称通り、ラグビーもやれば

では、ゆつたりと座り、まわりからジロジロ見られる心配もなく観戦できますから、当時は女学生たちにもスポーツ熱、特に中等学校野球熱が高まっていたそうです。女子たちにスポーツ観戦の門戸を広く開いたのが甲子園であった、といえるのかもしれません。

実際、大正十三年の中等学校野球大会の様子を写したスナップのひとつに「女学校の先生に引率された生徒たち」と題したものがあります。怖そうな先生の横で、袴姿の女学生たちがかまこまって試合をみているという写真です。モボ・モガといわれたモダンボーイ、モダンガールの大正ロマンチズムの時代でもありません。短い髪型の女性が着物ではなく洋装をまとい、スカートをはいて町を闊歩するのが最先端の新しい時代の女性だとされていました。そのモダンガールたちも甲子園球場に颯爽とあらわれる。今までにない風俗文化までつくり出したのが甲子園球場であったわけです。

当時の雑誌には中等学校野球大会

サッカーも陸上競技もやりました。あらゆる競技をする運動場だったわけです。

大正十三年八月十三日、球場初となる第十回全国中等学校優勝野球大会が開催されました。心配された観客数も大会四日目から増え始め、そこからは連日の満員となりました。対戦カードによって観客数が左右することもありますが、それだけで満員が続くわけがありません。他に要素がありそうだと思っただけでいろいろ調べてみたところ、なんとなくわかったことがありました。

甲子園球場は、単なる野球場や運動場ではなく、当時の最先端の場所だったのです。ひとつは、水洗トイレです。当時、水洗トイレのある家などほとんどありませんし、公共施設でもなかなかみられません。そのなかで、甲子園球場は完成当初から水洗トイレでした。これを見なが大いに珍しがったそうです。甲子園球場の水洗トイレは、当時の名物になっていました。

もうひとつはカレーライスです。

の選手たちを特集した記事、特にハンスサムな選手たちの特集記事が多くありました。彼女たちはそれをみて、この選手が格好いい、あの選手はハンスサムだと騒ぐ。そして試合後、お目当ての選手が球場から出てくるのを待つ。今でいう「追っかけ」です。「追っかけ」は甲子園から始まったといっても過言ではないような気がします。

当時の甲子園球場は、野球はもちろんサッカーもラグビーもやる、スポーツの大会の場であったのと同様に、それ以上の意味を持つ文化的な施設であり、最先端の風俗文化を兼ね備えた場でもありました。このことが長年、甲子園球場が支持され続けてきた要因のひとつではないかと思えます。

甲子園球場のツタにまつわる話

甲子園球場が完成した当初、外側はコンクリートの打ちっばなしでした。とりあえず工事を間に合わせたという感じそのままの殺風景なもの

だったために、完成後の秋頃、なんとかしたほうがいいぞという声があったようです。そこで、甲子園の設計をした野田誠三は考えます。ペンを塗るうにも、あの外壁の全面をペンキ塗りにするのはたいへんな作業になってしまふ。絵を飾るわけにもいかない。何かよい方法はないだろうかと考え悩んでいるなかで、ふと「そうだ、ヨーロッパの風景が描かれた絵ハガキがあったな」と思いつき、見ればライン川流域の古城にツタが絡まっていたり、ツタに覆われた教会があったりしました。それでツタはどうだろうかと思いついたわけです。しかも都合よく、甲子園は廃川を埋め立てた地ですから、水源に困ることはありません。今でも春夏の甲子園大会では、一試合が終わるたびにグラウンドに水を撒いています。あの水は井戸水で、甲子園のところから湧き出ているものです。「水なら豊富にある。ツタを植えよう」とひらめいた野田誠三は、はつきりとした時期はわかりませんが、十二月頃からツタを植え始めま

が行われました。

たとえば、昭和十三、十四年とスキージャンプ大会を開いています。雪は妙高高原から運び入れました。「雪かきをしてくれるのなら雪はさしあげる」と現地の駅長がいつてくれたものですから、勇んで貨車に雪を満載して、今の西宮駅に運びます。そこから先は甲子園の手前まで延びていた支線を使いました。ジャンパーは、大会では今のレフト側外野席から飛び出していきます。板組みのジャンプ台をつくり、大会前日、徹夜で雪を貼り付けていきました。寒い季節の作業ですから、嫌がる職人たちに酒を飲ませながら作業してもらい、設置工事を完了したといわれています。

スキージャンプ大会は、毎日新聞が主催して昭和十三年と十四年の二度開催しました。実はその翌年と翌々年、後楽園球場でも開催しているのです。当時は冬場の娯楽のひとつとしてスキーを楽しむ人などあまりいないので、よい娯楽になったと思いますし、実際、子どもの頃、親

す。三年ほどで人の背丈を上回るほどに伸びたそうですが、これがうまくいき、甲子園のシンボルとなるツタになっていきました。ちなみに、戦後、ツタがよく成長したのは、阪神パークにいた象の糞を飼料としたからだといわれています。

外壁の全面を覆うツタが甲子園のシンボルとなったわけですが、球場の建て替えのとき、一度それをすべて刈り取りました。刈り取ったツタは、高野連の全加盟校に贈られました。「学校で育ててほしい」というわけです。すぐに枯れてしまった学校もあれば、枯れずに育ったツタもありましたが、育ったツタは再び甲子園に戻り、移植されました。今、ずいぶんとそのツタが成長しています。ツタは、夏には日よけにもなります。壁面をツタで覆った野田誠三のアイデアは、すぐくよいものだったと思います。

に連れられて甲子園のスキージャンプ大会を観たという人が結構います。たしかにレフト側外野席から内野に目指してびゅんと飛ばせば、一幅の絵になります。

歌舞伎もありました。六代目菊五郎の野外歌舞伎のために櫓を組み、緋毛氈を敷く。演じるのは夜です。観にいった人はすぐ楽しめたそうですが、料金が高かったため、甲子園歌舞伎は一度きりで終わりました。

第二次世界大戦中の甲子園球場

昭和十五年、春の甲子園大会、夏の甲子園大会ともに試合前は宮城遙拝が行われました。皇居のある東に向かつての遙拝です。春の大会は翌十六年を最後に途切れます。夏の大会も同年、予選中に、学童は他県へ移動してはならないという文部次官通達によって中止となりました。兵庫県の学校は甲子園に行くことができても、他県の学校は甲子園では戦えません。つまり実質的な中止と

野球以外にも

活用された甲子園球場

阪神電鉄も甲子園球場をひとつの資産、資源としていろいろと活用していきました。後発の阪急電鉄が神戸、京都まで開通しているのに対し、阪神電鉄の路線そのものは四十キロほどと短い距離でしたから、当時の阪神電鉄の生きる道は「電力供給」と「事業」の二つでした。「電力供給」とは、当時はまだ関西電力はなく、そのかわりに阪神電鉄の沿線の住宅の電気はすべて阪神電鉄が配電をし、大きな利益を得ていました。「事業」というのは、甲子園球場や六甲山山頂に阪神電鉄の資本が入っていましたから、それらを生かす事業を、生きるためのもうひとつの道としていくというのが当時の社長以下、事業部の人たちの意見でした。「甲子園球場を単に野球のためだけに使うのは面白くない」、「奇抜なことをしよう」、「普通のことをしていたのでは面白くない」ということで、実際、いろいろなアイデアから多彩なこと

なったわけです。

面白いのは当時の新聞です。それまでは、九州にはこんな強いチームがいる、四国はここが、関西はあそこがという展望記事で賑わっていたのですが、通達翌日、それがすべてなくなっています。体力増強のための云々という、野球大会とはまったく関係ない記事に差し替えられているのです。朝日新聞の社史には、「時局を鑑みて中止にするという社告を出したいと申し出たが、それはならんといわれた」ということが残っています。敵国にさとられると、いいますか、防諜上許されないとされ、中止の記事を載せることができなくなったそうです。

翌十七年、春の大会は開催に向けて動き出します。同年二月にシンガポールを攻略し、緒戦で日本が勝ち続けているときで、景気よさから春の大会を再開しようという流れになったのだと思います。しかし結局、前年の夏の大会を中止したのだから、開催の話は流れてしまいました。今年の選抜高等学校野球大会は

九十六回目の開催でしたが、始まったのは大正十三年ですから、本当は今年が百回目の記念大会となるはずです。数が合わないのは、その戦時中の中止があったからです。

戦後、昭和二十一年になって夏の大会が復活します。ただし、試合会場は西宮球場でした。なぜなら甲子園球場が進駐軍の駐留基地になっていたからです。翌二十二年、春の大会から元通りの形に復しました。以来、今日の春夏の大会となっているわけです。

昭和二十年八月六日といえば、広島に原爆が投下された日ですが、実はその同日同時刻となる八月六日午前八時十五分、西宮市内にも空襲があり、多くの焼夷弾が甲子園球場にも着弾しました。一塁側アルプス席が炎上し、なんとか消し止めて延焼は防いだものの、戦後になっても応急処置をしただけの状態でした。昭和二十二年の春の大会の写真でも、その部分だけ立ち入り禁止になっていたことがわかります。平成七年の阪神淡路大震災のとき、アルプス席

ほかに、文化人、知識人の部門もあって、甲子園球場を設計した野田誠三氏はここに入っています。私は、三崎省三氏にも殿堂入りをしてほしいと思いつけているのですが、なかなかそういう気運になってくれません。

三崎省三氏は昭和四年に亡くなったものですから、あまりみんなの記憶に残っていないかと思いますが、甲子園球場をつくったということの輝きは残り続けていると思います。

三崎省三氏はあの時代、身体を鍛えなければならぬ、そのためには運動場が要るのに、日本には学校の校庭規模の運動場しかないではないかと考えました。「これではお粗末すぎる。公共的な本格的グラウンドをつくらなければならない」という発想は、留学経験があったからこそのものだと思います。今の時代ならばまだしも、あの大正時代においては希有なことだったと思います。

しかし、甲子園球場を建設しようという三崎さんの斬新なアイデアは、社内では生意気とも受け取られ、

の一部が崩れました。焼夷弾を受けて燃えてしまったところが壊れてしまったのですが、大正十三年につくったコンクリート部分はその大激震に耐え、ひびすらも入っていませんでした。良質のコンクリートを使っていた証しです。今のような海砂ではなく、本当の川砂を使った当時のコンクリートならばこそだと思っています。

甲子園球場をいろいろと知るたびに、それぞれに込められた思いを感じる事ができます。私の場合は八月十五日です。正午、東京で慰霊祭が執り行われると同時に、甲子園球場でもサイレンを鳴らします。どこか哀愁を帯びた音色が三十秒ほど流れる。いつもの三倍の長さです。

かつての中等学校野球大会でスターだった選手たち、たとえば沢村栄治や嶋清一といった大選手たちも戦火に散りました。その彼らが八月十五日、甲子園に戻って再会を喜び合っている。私はそんな気がしてしまふのです。同じことを感じていた元球児の未亡人もいらっしやいま

当時は必ずしも好意的には受け止めてもらえなかったようです。専務の時に社長代行もしていた三崎省三氏は、後に社長になってもおかしな感じがしたと思います。しかし社内の派閥争いもあって、不遇のままお辞めになり、早くに亡くなってしまったのですが、三崎さんのことはもともと顕彰してもよいと思います。手始めが野球殿堂入りです。何とかならぬいものかと思つてはいるのですが、三崎さんの功績を理解してくれる人がなかなかおらず、いまだ殿堂入りは果たせていません。

甲子園球場が

もたらしてきたもの

単なる運動施設にとどまらないものが甲子園にはありました。それを単に引き継ぐだけではなく、ひとつの風俗をつくりながら今も生き続けているのが甲子園球場なのです。

たとえば、今はもう当たり前のようになっている野球の応援団の応援のやり方も、甲子園から始まったも

した。もう皆さんお亡くなりになりましたが、お元気なときは八月十五日に球場を訪れ、正午のサイレンを静かに聴きました。甲子園は、ですから鎮魂の場にもなっていたわけです。

戦火を経験し、戦後の復興期、新しくなっていく社会、日本の近代のすべてを見つめてきた施設は、もうほとんど残っていません。その意味では、甲子園に感情移入をしてもよいような気がします。

評価されるべき

三崎省三氏の功績

甲子園球場は阪神電鉄の所有物です。阪神電鉄が今日あるのも甲子園球場のおかげといっても過言ではないはずです。あの大正の時代にあれほど大きな球場をつくった。それだけでも後世に評価されるべき偉業だと思います。

野球界に尽力し、大きく貢献した人物を顕彰する「野球殿堂」というものがあります。選手の表彰部門のようです。戦前から戦後、中等学校から高等学校になり、そして男女共学になり、女子と一緒に応援に参加するようにになりました。

さらには硬式野球をしている高校も出てきました。女子硬式野球選手権大会まで開催され、決勝戦は甲子園が舞台になります。当初、一回戦から甲子園で女子硬式野球大会を開きたいと申し出ていたのですが、日程の都合で決勝戦だけとなりました。

大正デモクラシーの時代、先ほどお話をしたように甲子園は女性たちにも門戸を大きく開きました。女性が球場に来て野球観戦をする光景は今でこそ当たり前ですが、昔は男性だけが観るものでした。そうではない風景が生まれたのが甲子園だったのです。大げさにいえば、甲子園はスポーツを女性に開放した先駆けであった。そういうのも過言ではないと思います。大正十三年頃といえば、平塚らいてうたちが「新しい女」というものを提唱し、婦人誌『青鞥』を創刊して女性解放運動をしていた

# 倶楽部だより

講演録 甲子園100年

時代です。これを後押しするようなものが甲子園でもあったわけで、画期的なことだったはず。甲子園といえば野球云々となりがちですが、決してそれだけではないということ。皆さんにもわかっていただければと思います。

もうひとつ、甲子園は地域密着の存在でもありました。西宮市内の中学校の体育大会の会場は甲子園です。外野の芝生の上で器械体操をしたりしている。ですから、「甲子園の土を踏んだことがありますよ」という女性も結構いたりします。西宮市民にとって甲子園は特別な場所でも

あり、身近な場所でもあるわけです。実は当時、球場の建設に携わった人夫のほとんどが地元の人でした。そういう意味では甲子園球場は市民たちがつくった球場ともいえるでしょうし、それだけに市民の人たちにも愛着があるのかもしれない。

「おわりに」

市民の宝から全国民の宝となった甲子園は、今や文化性を帯びた存在になったといっても過言ではないと思います。たとえば高校生の書道大会でも「書の甲子園」といつてみた


り、ロボットの性能を競う大会にも「ロボット甲子園」と題していただきます。合唱でも俳句でも、大会となれば「甲子園」という言葉がついてきます。それだけインパクトの強い存在になっていくわけです。

甲子園は単なる球場でも運動場でもなく、大衆社会の文化性を帯びた存在であると私は思っています。皆さんもそのような認識をしていただけるなら、甲子園に対する新しい視点も生まれてくるのではないのでしょうか。


（令和六年三月十五日）  
午さん会講演抄録文責在記者

CLUB GRAF くらぶ・ぐらふ

●午さん会(12月1日)  
『アメリカンフットボールの魅力』  
「チームスタッフの視点から」  
パナソニック株式会社  
リーガルセンター企画部 法務サポート課  
園部 友美氏



●午さん会(12月8日)  
『ウクライナ、台湾、中東からのセキユリテイの教訓』  
NITチーフサイバークリテティストラテジスト  
松原 実穂子氏




●午さん会(12月15日)  
『紫式部と藤原道長』  
京都先端科学大学人文学部歴史文化学科学科教授  
平安文学研究者  
山本 淳子氏



## 当倶楽部会館内における節電協力へのお願い

地球温暖化防止及び節電に寄与するためクールビズに取り組んでいます。皆さまのご理解とご協力を是非お願いいたします。

◇クールビズ実施  
令和六年五月一日(水)から十月末日まで



期間中上着なしでも可  
ノーネクタイでも可  
クールビズスタイル

NG	Tシャツ	下駄	サンダル
	襟なしシャツ	短パン	スリッパ

- ◇大食堂・厨房、各事務所  
照明、OA機器、空調等の節電
- ◇エレベーター  
本館エレベーターのうち一基を原則終日運転休止とさせていただきます。
- ◇貸室  
使用開始一時間もしくは二十分前の空調照明ON  
利用終了時の空調照明コンセントOFFの徹底  
不使用室の空調・照明OFFの徹底
- ◇廊下・共用部分の照明  
照度を考慮したうえでの間引きの実施  
閉館以降の館内消灯の徹底

## 北側月極駐車場の利用者募集します

当倶楽部の収支改善の一環として継続的収入を得るため北側駐車場を月極により貸し出すこととします。つきましては次のとおりご利用される方を募集いたします。

- ※会員様限定 四台
- 月額利用料 三七、〇〇〇円(税込)
- 初期費用 不要
- 契約期間 一年更新
- サイズ 全長五、五〇〇mm  
全幅二、五〇〇mm

## 図書だより

- ◎寄贈図書
  - 「かみなり」
  - 「おもしろサイエンス 雷の科学」
  - 「写真で読み解く 雷の科学」
  - 「よくわかる雷対策の基本と技術」
- ◎寄贈者 音羽電機工業株式会社 (指定会員)
- 「松下幸之助感動のエピソード集」
- 「実践 理念経営Labo」
- 2023 10-12
- ◎寄贈者 渡邊 祐介氏
- (四月五日 公開講演会講師)
- ◎寄贈者 板橋 功氏
- (午さん会講師)
- ◎寄贈DVD
  - 「世界のテロ情勢と対策」DVD

月極 駐車場募集

4台

1ヶ月:37,000円(税込み)  
※会員様限定

敷金礼金不要  
ワゴン車OK

お問い合わせ  
中央電気倶楽部  
総務グループ 藤川まで ☎: 06-6345-6356







岡本 氏



猪谷 氏



天王寺動物園にて

三月二十一日(木)に写真部は「天王寺動物園」で撮影会を開催しました。朝から晴天で季節外れの寒さの中、日本で三番目に長い歴史をもち約二〇〇種一〇〇〇匹の動物が飼育されている動物園での撮影会となりました。撮影会を前後してのあべのハルカスの「なかの家」での昼食会では、おいしい日本料理をいただきながら、写真談議に花を咲かせました。

写真部撮影会  
「天王寺動物園」で開催



点灯式



記念講演 松波 弘之氏



白銀 委員長 挨拶

三月二十五日(月)、当倶楽部は(一社)日本電気協会関西支部との共催で、恒例の電気記念日祝賀会を開催し、関係者一九一名が五階大ホールに集いました。祝辞に続き、電気記念日の由来となったアーク灯とエジソンの竹フィラメント電球(復元)の点灯式を実施。  
続いて電気関係事業の傘寿功労者三九二名を代表して安元謙太郎氏、功績者三六名を代表して上門一裕氏に感謝状が贈呈されました。  
そして、記念講演は、松波弘之氏にご講演頂き、祝賀式を終えました。

電気記念日を祝う



さくら広場にて



2024年4月3日 パナソニックミュージアム 松下幸之助歴史館



帝国ホテルにて

四月三日(水)電寿会が春の見学会を開催し、パナソニックミュージアムと藤田美術館を訪れました。

電寿会 春の見学会実施



渡邊 祐介 氏

『松下幸之助生誕一三〇年』  
「アントレプレナーシップの原点を考える」  
四月五日(金)十三時三十分より五階大ホールにて株式会社P H P 研究所の取締役執行役員で、P H P 理念経営研究センター代表の渡邊祐介氏をお迎えいたしました。  
松下幸之助氏は昭和七年に第一回創業記念式を中央電気倶楽部大ホールで開催され、「水道哲学」を演説されましたが、まさにその場所でご講演いただきました。  
講演録は六月月報に掲載いたします。

公開講演会 開催



記念写真



引揚記念館

四月四日(木)に電社会(代表幹事伊貝武臣氏・当番幹事黒井治氏)は春の見学会を開催し京都府舞鶴市の「舞鶴引揚記念館」と「関西電力 舞鶴発電所」などを訪問しました。

電社会 春の見学会実施

当倶楽部の駐車場  
一時利用に関するお願い

当倶楽部の警備会社の変更ならびに北側駐車場の月極化による一時駐車スペースの縮小に伴い、四月以降、駐車場の一時利用については以下のとおり取り扱うこととさせていただきます。

皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

- 駐車場を一時利用される際は、総務グループまでご予約の連絡をお願いします。
- (警備室に直接ご予約することはできなくなりましたので、よろしく申し上げます。)
- 駐車場一時予約…総務グループ  
TEL 〇六一六三四五一六三五六
- 当倶楽部ご利用の会員様優先とします。
- キャンセルの場合はご連絡をお願いします。(予約時間が過ぎていてもご連絡をお願いします。)
- 喫茶ご利用や短時間の駐車の場合でもご予約をお願いします。

◎絵画部(水彩画)教室
四月度(三日・水曜日)の画材は、「着衣人物」でした。
次回は五月十五日(水)「風景(野外スケッチ)」です。
大阪市中央公会堂の正面玄関に十三時前現地集合。雨天の場合は倶楽部にて。



「冬野菜」

(絵画部員 北本浩之君)

◎囲碁部 例会(四月十三日)
成績
三勝 五段 井垣 文男 君
二勝 八段 山田 進 君
〃 〃 三 田中 泰 君
〃 〃 三 鳥養 憲次 君
(参加者 七名)

(次回例会は五月十一日(土))

◎将棋部 例会(三月二十三日)
成績
三勝 六段 井上 清志 君
二勝 六段 住原 廣 君
〃 〃 六 楠本 光秀 君
(参加者 六名)

(次回例会は五月二十五日(土)指導なし)

◎第三十四回 四倶楽部懇親将棋会
(四月六日) 於 中央電気倶楽部



◎ゴルフ部第五七一回 例会
(三月二十八日) 晴れ 於 田辺CC
成績
優勝 石田 貴志 君
二位 辻田 知史 君
三位 石田 大 君



・優勝コメント
雨の予報でしたが、予報は外れて絶好のゴルフ日和となりました。ゴルフ部の皆様の日頃の行いのおかげかな。少し早めのお花見ゴルフを楽しんだ上に優勝というおまけも付いて最高の一日となりました。
(今回は、第五七三回例会
五月十四日(火) 琵琶湖CC)

◎撞球部
第一三八回 三倶楽部対抗四ツ球競技会
(四月六日(土)) 於 (二社) 清交社 撞球場



◎例会(四月十三日)
成績
優勝 清交社 森 凌 君
二位 大阪倶楽部 △/○/△
三位 中央電気倶楽部 △/×/△
(当倶楽部出場選手・六名)

・優勝コメント
二〇二二年八月例会以来、久々の優勝で大変喜んでいきます。
当日四人の対戦相手の方々には、良い球を残して頂き感謝の気持ち一杯です。お陰様で四戦全勝と思ってもいなかっただけ結果に驚くはかりです。末筆では有りますが、毎月の勉強会で教えて頂いた講師の石塚さんには、心より感謝申し上げる次第です。
(次回例会(春季大会)は五月十一日(土))

◎俳句部
第八百六十回 いなづま句会
俳誌「かつらぎ」主宰 森田純一郎先生指導
令和六年三月十六日
兼題 当季雑詠五句

選者 吟

下萌や鹿反芻を繰り返す
春光をはじき阪急電車来る
またひとつ消ゆる俳誌に春惜む
ほろ酔うて春二日月を見上げけり
龍天に昇り濁世を鎮むべし

いなづま句抄

- 戻ることなき戻り橋利休の忌 富山 勝幸
○春水の豊かな流れ社家の町 木下 貴友
○春動く土竜築きし土の山 前田 便利
○まろやかな白湯もて終はる菜喰 広田 祝世
○一歩二歩初たんばばの花の道 出店智恵呼
○初蝶来なにかよき日になりさうな 奥村 恵子
○すぐ終はるお内裏様の難節 友岡 淑子
○こたつ舟程よき速き城あをぐ 前野美枝子
○カーテンを温むるほどの日射しかな 野尻 弘輔
○伊勢参り宿の朝餉のめかぶ粥 東代 舞
○春の陽に光る一寸蜘蛛の糸 留岡 寛
(○印選者選)

(注)
下萌(したもえ)・・・まだまだ外気は冷たいが草はいち早く春の気配を感じ取って、萌え出ること。(季語)

戻り橋(もどりばし)・・・京都、堀川に架けられている一条通りの橋で、利休の首がさらされたとされる場所。

菜喰(くすりぐい)・・・滋養をつけた冬期に「菜」と称し、猪や鹿、兎などの肉を密かに食へていました。これを「菜喰」と言う。(季語)

初蝶(はつちょう)・・・春になって初めて目にする蝶のこと。しじみ蝶や紋白蝶など小さな蝶を目にすることが多い。(季語)
伊勢参り(いせまいり)・・・時候が良い春に、伊勢大神宮(内宮外宮)を参詣すること。(季語)

他倶楽部案内

清交社の午さん講演会のご案内

会場: ANAクラウンプラザホテル大阪 五階ガーデンルーム他
時間: 十一月三十分~十三時三十分
五月七日(火)
講題「組織・チームを活性化するには」
五月十四日(火)
講題「見えぬものを観る。」

五月二十一日(火)
講題「激動する国際情勢と日本の対応」
五月二十八日(火)
講題「学問的に興味深い皮膚病について」

※状況により中止になる場合があります。
出前ご希望の方は、当倶楽部事務局に二日前までにお申し込み下さい。
会費/三三〇〇円(昼食代消費税込後日精算)
前日の午後五時以降は、キャンセル料が発生します。
☆五月一日よりクールビズ